

## 国際金融パネルの趣旨

### 1. テーマ：地政学的リスクと国際金融

#### 2. 概要

近年、国際情勢の不確実性が高まるなか、地政学的リスクが世界経済や金融市場に及ぼす影響が一段と注目されている。本パネルでは、実証分析および政策現場の知見を統合し、制裁措置を含む地政学的ショックが資本移動、決済インフラ、金融システムの安定性に与える影響を多角的に検討する。

まず、マクロ的な視点から、地政学的リスクが「極端な資本移動エピソード (Surge, Stop, Flight, Retrenchment)」の発生に及ぼす影響を実証的に検証する。先進国と新興国での脆弱性の相違や、世界金融危機後の構造変化に着目し、リスク波及のメカニズムを明らかにする。

次に、金融インフラの側面から、ロシアに対する Swift 制裁が手段として用いられる背景と、それに対抗する SPFS や中国の CIPS といった代替ネットワークの機能と制約を検討する。制裁の効果を輸出面と輸入面から分析するとともに、暗号資産やデジタル・ルーブルを用いた制裁逃れの動きが、決済・金融インフラにどのような影響を与えているかを考察する。

さらに、複数国間での CBDC 接続や新たな決済アーキテクチャの構築が進展するなか、デジタル・マネーがもたらす国際金融の構造的変化を整理する。既存のコルレス網を経由しない「新たな経路」としての進展を概説し、それが資本移動管理の実効性や通貨主権に提起する「新たなリスク」と政策的課題を論じる。

最後に、ASEAN+3 地域における決済連結性の最新動向を俯瞰する。規制の相違や技術的格差、スケーラビリティの制約といった持続的な課題、および外貨建てステーブルコインに伴う新たなリスクを特定し、効率的かつ安定的な決済網の構築に向けた地域協力の方向性を展望する。

#### 3. パネルの構成

本パネルでは4名の報告者が報告をおこない（各パネリスト約20分×4）、その後、フロアとの質疑応答やディスカッションをおこなう予定である。報告タイトルと報告者は以下の通りである。

座長 金京 拓司（神戸大学）

第1報告 北野 重人（神戸大学）

「地政学的リスクと国際資本移動－金融危機後の変化と先進国・新興国の比較分析－」

第2報告 中島 真志（麗澤大学）

「金融制裁における Swift の利用と代替ネットワークの可能性」

第3報告 杉浦 達也（IMF 金融資本市場局 審議役）

「デジタル・マネーと国際金融 — 新たな経路と新たなリスク」

第4報告 渡部 康人（AMRO 事務局長兼 CEO）

「ASEAN+3 におけるクロスボーダー決済等の動向と方向性」